



■ PROFILE ■

KAZURO·MOKKUN モックン・カズロー

[ツァーコンダクター、ディスコリポーター・1958年生まれ]

氏は深夜の京都に棲む。イマの女性の生態に客観的というプラチナのメスを入れさせれば天下一品。しかし、それは本質的に女性を愛しているからこそ表現も出来るのだろう。氏のコラムは見るよりも触れることが基本なのだあと痛感させられる視点がそこにある。タイムカプセルに入れておかねばならぬ、切り刻んだ現代を反映している。

今年の9月、新神戸駅前にオリエンタルシテイなるものがオープンした。その一角にディスコ「KING & QUEEN」が出来たと聞いた私は早速インビテーションを手に入れチームを組んで神戸へと足を向けたのである。シテイの前に到着した私はいきなり三角形に天を貫くかの様に立ち開った37階立てのニューオリエンタルホテルに驚かされた。なんでもこのシテイは①ホテルゾーン②シアターゾーン③テナントゾーン(オリエンタル・パーク・アベニュー、略してOPA)と3つのゾーンから形成されているらしく、問題のディスコ「K & Q」はその「OPA」に位置していたのである。まだ皿9・30だというのに不夜城のごとく明るく輝くこのアベニューを歩いていると、一種のカルチャーショックさえ感じさせられてしまう。

「K & Q」の入口付近は予想通りの長蛇の列で当日のイベント・スタッフ達が目まぐるしく出入りしていた。そしてペイントの巧な小技で大理石風に見せた壁は地下のレジ前へと続いていたのである。他店で見るとHホテル

はいルネッサンス風装飾はいささか控えめであるにしろ、やっぱり「K & Q」である。京都からの顔見知りには苦笑いしながら「ハイ、今晚ワ! いらっしやいませ!」の挨拶とセットになったチケットを手にして店内へ潜入した。はつきり言ってレセプションは好きである。初日に近ければ近い程、客のレベルは高く、その客層に失望させられる事はまずない。この雰囲気は非常に大事であり、Aランク常連や業界人の臭い漂うシヤオレな空気がそこにはある。連中は皆「今日はセレモニーだ」というマナーを身に付けて着けてい

いたというわけである。画一化された女で構成される通常のディスコよりは自分を主張できる奴らが少しは居るといった感じだ。豹女に気をとられていた私はふとその側に落ち着きのない女三人組が居るのを発見した。彼女らはダンスにも何となく身が入らぬ様子であたりをキョロキョロ見渡しているのだ。どうやら玉輿族の様である。ほくそ笑みながら私は彼女らの会話が聞きとれる場所まで移動した。①キヨコ「いや、あの子ハンサムやワ!」②ヤスコ「私もそう思ってたさつきから見るとん。あれってちよと美味いんとちやうのー!」③エミ「ヤスコ、誰、誰のこと? 私に行かして!」④ヤスコ「あそここのほら、背の高い男前や!」⑤エミ「いや、ホンマ! 私モデルしてます言うて、アタックしてこよ!」⑥キヨコ「何言うてんの、あんたはすぐ冷めるしアカン! ウンナイトラブの人には寄せたげへん!」⑦ヤスコ「私が行くワ!」⑧キヨコ「あんた彼氏いるやろ! たまには愛の始まりさせてーさ!」⑨ヤスコ「今日は関係アリナミンやもんね!」とまあ好き勝手手気まま、チイママ、コママのお下劣かしまし娘なのである。しばらくして三人のうち一人がその男に声をかけるコトに決った様子で私は胸をはずませ、展開の行方を追った。⑩子だった。「すみませーん! ちよと! いますかー!」みことなまで軽白、不仕付攻撃だった。あまりの唐突さに意表をつかれたふりをしながら振り返った男は、

ディスコ編2「キング&クイーン」バージョン

女人採集凶鑑

第七巻

CLUB FAME COLUMN 1988

HAPHAZARD REMARKS

FROM KYOTO JAPAN

(これだけこの男の近くでウ・ガイ声とどろかしてしゃべくってちやイヤでも聞こえて意識するだろが!)「エッ!」と怪訝そうな顔を一瞬見せただけで人ゴミの中へ「それじゃ!」っぽく消えて行った。カッコイイ!

残された馬鹿顔三人組はというと⑪ヤスコ「ちよと男前や思て天狗天狗天狗やワ!」⑫キヨコ「うっとしワ!」⑬エミ「次、探せ行こ行こ!」いや、あの人カッコイイ!「ウソ、どれどれ、次あんた行きーさ」といとも簡単にターゲットを変える始末とにかく世の純情純愛路線を夢見る男性諸君! 時代は流れているのである! ちよとぐらいい遊んでるからって、まだまだ要注意モンなのだ。あとあと尻の毛まで抜いちゃえせがみ組が最近結構居るもんで、今自分が付合ってる彼女も再チェックの必要ありってわけなのだ。目を離してススキに何をしてくわかつたもんじゃありませんゾ。